



平成30年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月10日

上場会社名 株式会社ジェイグループホールディングス

上場取引所 東

コード番号 3063 URL <http://www.jgroup.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 新田 二郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 赤工 朝飛

TEL 052-243-0026

四半期報告書提出予定日 平成30年1月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第3四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第3四半期	10,614	2.3	174		148		207	
29年2月期第3四半期	10,378	0.8	142		168		194	

(注) 包括利益 30年2月期第3四半期 200百万円 (%) 29年2月期第3四半期 169百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第3四半期	25.39	
29年2月期第3四半期	24.28	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第3四半期	9,502	1,658	16.8
29年2月期	8,642	1,666	19.2

(参考) 自己資本 30年2月期第3四半期 1,593百万円 29年2月期 1,662百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期		1.50		1.50	3.00
30年2月期		1.50			
30年2月期(予想)				1.50	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	4.5	150	178.1	130	111.7	50		6.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 有
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期3Q	8,496,400 株	29年2月期	8,196,400 株
期末自己株式数	30年2月期3Q	200,035 株	29年2月期	200,035 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期3Q	8,163,274 株	29年2月期3Q	7,996,365 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や設備投資の改善、個人消費の持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調が続いているものの、世界経済の不確実性の高まりもあり先行きに依然不透明感を残す状況で推移いたしました。

外食業界におきましては、原材料価格の上昇や人材不足による人件費関連コストの上昇など、厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、当社グループでは、平成29年9月から、エリア経営を推進し最適な人員配置ができるよう、地域ごとのカンパニー体制に営業組織を変更いたしました。出退店では、7店舗を新規出店し、5店舗をリニューアルするとともに、6店舗を閉店いたしました。また、平成29年11月30日に「博多かわ屋」を運営する株式会社かわ屋インターナショナルの株式を取得し、連結子会社といたしました。これらにより、平成29年11月末日時点での業態数及び店舗数は、76業態149店舗(国内147店舗、海外2店舗)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は10,614百万円(前年同期比2.3%増)となりましたが、11月に実施した4店舗のリニューアル費用の増加等がコスト増加要因となり、営業損失は174百万円(前年同期は営業損失142百万円)、経常損失は148百万円(前年同期は経常損失168百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は207百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失194百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲食事業

人件費や求人費用の上昇傾向が顕著となっておりますので、最適な人員配置ができるよう営業組織の見直しを行いました。また、既存店のリニューアルに注力するとともに、仕入や物流を共同化することで原価低減に取り組みました。平成29年11月30日には、「博多かわ屋」を運営する株式会社かわ屋インターナショナルの株式を取得し、直営3店舗とF C 1店舗が当社グループの店舗として増加いたしました。

主な新規出店といたしましては、平成29年3月に「きばくもん」(名古屋市中区)、4月に「名古屋丸八食堂(なごやまるはちしょくどう) 豊田店」(愛知県豊田市)、6月に「おざぶ」(京都市中京区)及び「SARUBARUSA(さるばるさ)」(愛知県豊橋市)、8月に「光蔵(みつくら)」(名古屋市中区)、9月に「えどわん」(東京都中央区)、11月に「てしごと家(てしごとや) 豊田店」(愛知県豊田市)をオープンいたしました。また、3月に「きじょうもん」(名古屋市中村区)、11月に「肉箸(にくばし)」(名古屋市中村区)、「でーもん」(名古屋市中村区)、「チカイチ」(名古屋市西区)、「THE KRAZY GARLIC(ざ・くれないじーがりっく)」(東京都豊島区)をリニューアルオープンいたしました。なお、「猿Cafe(さるかふえ)TV塔店」(名古屋市中区)、「SARU CAFE ラシック店」(名古屋市中区)、「猿Cafe豊橋店」(愛知県豊橋市)、「Mart(まーと)」及び「88(ゆいっとゆいっと)ららぽーとTOKYO BAY」(千葉県船橋市)、「大地の恵み(だいちのめぐみ)」(大阪府守口市)を閉店いたしました。

その結果、飲食事業における売上高は9,622百万円(前年同期比3.6%増)、営業利益は271百万円(同13.2%増)となりました。

② 不動産事業

テナントビル「ダイヤモンドウェイ」や「G-SEVENS刈谷」などの賃貸収入に加え、前連結会計年度に開設したテナントビル「j G金山」が収益に寄与いたしました。その結果、不動産事業における売上高は1,520百万円(前年同期比7.1%増)、営業利益は126百万円(同7.8%減)となりました。

③ ブライダル事業

景観・立地の優位性を活かして企業のパーティ需要の取り込みを図りましたが、「LUCENT Marriage Tower(ルーセントマリアージュタワー)」について、婚礼数が若干減少いたしました。その結果、ブライダル事業における売上高は597百万円(前年同期比1.2%減)、営業利益は28百万円(同23.3%増)となりました。

④ その他の事業

販促製作事業及び卸売業等のその他の事業における売上高は652百万円(前年同期比9.3%減)、営業利益は27百万円(同30.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は9,502百万円(前連結会計年度末比859百万円増加)となり、負債は7,843百万円(同867百万円増加)、純資産は1,658百万円(同7百万円減少)となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ総額で208百万円減少し1,291百万円となりました。これは、現金及び預金が355百万円減少し、売掛金が54百万円増加したことなどが主な要因であります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,067百万円増加し8,207百万円となりました。これは、新規出店などにより有形固定資産が645百万円、差入保証金が57百万円、株式会社かわ屋インターナショナルの株式取得に伴うのれんの計上により無形固定資産が341百万円、それぞれ増加したことなどが主な要因であります。

繰延資産につきましては、社債発行費の増加を主因に、前連結会計年度末に比べ1百万円増加し2百万円となりました。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ877百万円増加し3,838百万円となりました。これは、短期借入金が422百万円、1年内返済予定の長期借入金が54百万円、未払金が256百万円、それぞれ増加したことなどが主な要因であります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ10百万円減少し4,005百万円となりました。これは、長期借入金9百万円減少したことなどが主な要因であります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ7百万円減少し1,658百万円となりました。これは主に、非支配株主持分が63百万円増加、新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ78百万円増加し、四半期純損失の計上及び中間配当により利益剰余金が231百万円減少したことなどが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の連結業績予想につきましては、平成29年4月7日に公表いたしました業績予想から現時点におきましては、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	749,519	394,496
売掛金	322,467	377,224
商品及び製品	2,225	2,178
原材料及び貯蔵品	116,598	121,217
その他	312,674	396,735
貸倒引当金	△3,097	△126
流動資産合計	1,500,387	1,291,726
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,379,871	3,303,488
土地	1,623,107	1,764,002
その他(純額)	591,280	1,172,097
有形固定資産合計	5,594,259	6,239,588
無形固定資産		
のれん	19,835	361,004
その他	7,267	7,479
無形固定資産合計	27,102	368,483
投資その他の資産		
投資有価証券	8,220	8,220
差入保証金	1,267,858	1,325,806
その他	261,134	286,628
貸倒引当金	△17,921	△21,019
投資その他の資産合計	1,519,291	1,599,635
固定資産合計	7,140,654	8,207,707
繰延資産		
社債発行費	1,234	2,800
繰延資産合計	1,234	2,800
資産合計	8,642,276	9,502,234

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	498,441	435,956
短期借入金	3,800	426,400
1年内返済予定の長期借入金	1,131,940	1,186,504
1年内償還予定の社債	46,000	66,000
未払金	739,581	996,282
未払法人税等	65,797	21,212
賞与引当金	-	2,778
株主優待引当金	-	12,600
その他	474,805	690,287
流動負債合計	2,960,366	3,838,022
固定負債		
社債	46,000	80,000
長期借入金	3,386,843	3,377,234
資産除去債務	98,375	91,059
その他	484,551	457,241
固定負債合計	4,015,770	4,005,534
負債合計	6,976,136	7,843,557
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,068,969	1,146,969
資本剰余金	998,969	1,076,969
利益剰余金	△286,797	△518,493
自己株式	△76,021	△76,021
株主資本合計	1,705,119	1,629,422
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△42,417	△35,806
その他の包括利益累計額合計	△42,417	△35,806
新株予約権	3,438	1,638
非支配株主持分	-	63,423
純資産合計	1,666,139	1,658,677
負債純資産合計	8,642,276	9,502,234

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	10,378,617	10,614,555
売上原価	3,281,132	3,330,396
売上総利益	7,097,484	7,284,158
販売費及び一般管理費	7,239,701	7,458,249
営業損失(△)	△142,217	△174,090
営業外収益		
受取利息	321	363
協賛金収入	69,140	90,452
設備賃貸料	9,164	14,579
その他	8,270	6,763
営業外収益合計	86,896	112,158
営業外費用		
支払利息	53,151	56,641
為替差損	35,142	8,306
賃貸費用	18,807	16,604
その他	5,596	4,848
営業外費用合計	112,697	86,400
経常損失(△)	△168,018	△148,333
特別利益		
固定資産売却益	4,187	-
債務免除益	5,670	-
特別利益合計	9,857	-
特別損失		
減損損失	20,033	10,377
店舗閉鎖損失	51,057	77,173
貸倒損失	18,039	-
特別損失合計	89,129	87,551
税金等調整前四半期純損失(△)	△247,290	△235,884
法人税等	△47,397	△29,127
四半期純損失(△)	△199,893	△206,756
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△5,736	500
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△194,157	△207,257

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
四半期純損失(△)	△199,893	△206,756
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	30,089	6,610
その他の包括利益合計	30,089	6,610
四半期包括利益	△169,804	△200,146
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△164,336	△200,146
非支配株主に係る四半期包括利益	△5,467	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年3月1日 至 平成28年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飲食	不動産	ブライダル	計				
売上高								
(1) 外部顧客 への売上高	9,216,337	181,057	603,911	10,001,306	377,310	10,378,617	—	10,378,617
(2) セグメント 間の内部 売上高又は 振替高	68,644	1,238,405	912	1,307,962	342,538	1,650,500	△1,650,500	—
計	9,284,981	1,419,463	604,823	11,309,269	719,849	12,029,118	△1,650,500	10,378,617
セグメント利益 又は損失(△)	239,827	137,417	23,462	400,707	39,560	440,267	△582,484	△142,217

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△582,484千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食」セグメントにおいて、ジェイプロジェクトの不採算店舗に係る構築物及び工具器具備品等について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、20,033千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飲食	不動産	ブライダル	計				
売上高								
(1) 外部顧客 への売上高	9,559,875	174,346	597,211	10,331,433	283,121	10,614,555	—	10,614,555
(2) セグメント 間の内部 売上高又は 振替高	63,019	1,346,230	564	1,409,814	369,611	1,779,426	△1,779,426	—
計	9,622,894	1,520,576	597,776	11,741,247	652,733	12,393,981	△1,779,426	10,614,555
セグメント利益 又は損失(△)	271,550	126,694	28,924	427,169	27,677	454,847	△628,938	△174,090

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△628,938千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食」セグメントにおいて、株式会社ジェイプロジェクトの不採算店舗に係る構築物及び工具器具備品等について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、10,377千円であります。